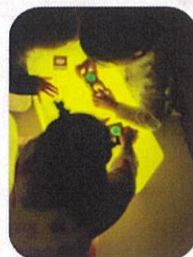
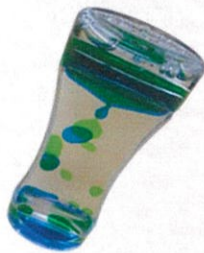


たんぽぽぐみ だより

令和6年度 鎌倉保育園

8月号の園だよりでもお知らせいたしました「ときょうすくわくプログラム」は、乳幼児の豊かな心と育ちをサポートするため、主体的・共同的な探究活動を通じて保育の充実を図ることを目的とした事業です。鎌倉保育園でも事業の実践を行ってまいりました。ねんげ組がある2階の保育室は遊んでいるときに日が差し明るく暖かいです。その中で日が家具に反射したり夕方には影が出来て光と影に興味を示していたのでテーマを「光と影」にして取り組みました。

午睡明けの時間帯に、懐中電灯を天井に向けて照らしてカラーセロハンやオイルタイマーに光を当ててみると子どもたちが興味を示し、「雨が降ってみたい」「おばけだ!!」等の発言がありました。その後、色付きのクリアブロックやLEDが内蔵された光るテーブルを用意したり、子どもたちの気付きや発言に合わせてその都度簡単にできる道具などを手作りして提供しました。



↑テラスへ出て太陽光をカラーブロックに当ててみたり、メガネを通して周りを見ている子どもたち。

色水を作り、太陽光に当て色の見え方観察したり、自身の影を見て「大きくなったら(影も)大きくなるよ」と影の伸び方に気付きを得た子どもがいました。また、2色以上の色が重なると色が変わることに気が付くと「クレヨンでもやってみよう」と様々な興味が湧いてきました。

お散歩先の公園でも日向や日陰の話を興味深く聞いて、日常の些細な疑問に「なんで?」と尋ねてくれることが増えました(^_^)

丸いブロックを目に当てて「トンボみたい!」と話す子どももいました。その発言により「たんぽぽのめがね」がほしい楽しんだり、子どもたちと一緒にカラーセロハンを使用したメガネを製作しました。



この部分にセロハンを貼り、完成。



すくわく①

- ・午睡明けの時間帯に天井に懐中電灯を照らし、起きた子ども達の反応を観察した。
 - ↳ 大きくなったり小さくなったりする光をみて「おばけみたい!」、「明るいところがある」等と感じたことを言葉にして保育者に伝えていた。
- ・同じく午睡明けの時間帯にオイルタイマーを懐中電灯で照らし、壁や天井に映る影や色の動きを楽しんでいる。



- ↳ 壁に映る水滴の影を見て「雨が降ってるみたい!」「あわあわ（泡）がいっぱいある!」と感じた事を次々に口にしていた。子どもに向けて影を移すと、周りの子どもが「〇〇くん青くなってる」と色や影の動きを楽しみながら眺めていた。
 - ・雨を連想した子ども達が「あめふり」の歌を歌い始める場面が見られた。
- ・色付きのクリアブロックを提供し、まずは好きなように遊んでもらい反応を観察した。



- ↳ 保育者が懐中電灯やライトで照らすと色のついた影が天井や壁に映り、その様子を楽しんでいた。
 - ・枠のついた丸いブロックを二つ目に当てて「トンボの眼鏡」と話す子どもがいた。
 - ↳ その発言に触発され、「とんぼのめがね」を歌いだす子どもが数名いた。
- ・「トンボのめがね」という発言をもとにトイレットペーパーの芯を用いて自分だけの双眼鏡を製作する。セロハンの色も数色ある中から好みに選択してもらう。

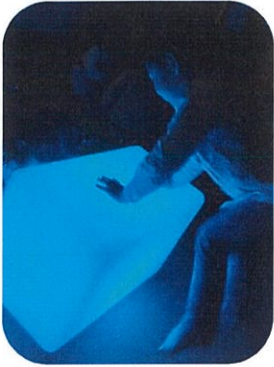


この部分にセロハンを貼り、完成。

- ↳ 首から下げ、外遊びの際などに使用している。「〇〇ちゃんが〇〇色になってる」とセロハン越しに色が違って見えることを楽しんでいた。

すくわく②

- LED内蔵のテーブルを用意し、暗い部屋の中で点灯して反応を観察した。



- 青く光ると、「お風呂だ！」と水を連想した発言が聞かれた。
- 赤く照らすと、「火事です！火事です！」とブロックの消防車でごっこ遊びをしていた。
- 黄色や白に照らし。その上にクリアブロックを載せると、光の色によってブロックの色の見え方が変わることに気付いた子どもがいた。

すくわく③

2025年1月8日（水）

- ・テラスにてクリアブロックやオイルタイマーを太陽光にかざし、影や様子を観察する。



- ↳ ・ブロックを重ねると出る影の色が混ざり新たな色が出現したことに驚く。
・お日様の光がどうしてこうなるのか？→「反射してるんだよ」と一人が話す。
・オイルタイマーの影を見て、「青と緑だけ見える（影がうつっている）」と話す。

- ・ブロックやオイルタイマーを通った光が自身の体に映っている様子を楽しんでいる。



- ↳ ・「〇〇ちゃんの手と園服に色がついてる」と気づき、自身の手をかざす子どもがいた。
・ブロックを置く場所を変えると影の長さが変わることに気付いた。
・カラーセロハンを貼った双眼鏡の玩具に同色のブロックや異なる色のブロックをかざし、色の見え方が変わることを楽しんでいた（緑のセロハン越しに緑のブロック、青のセロハン越しに黄色のブロックなど）

- ・自身の影を見ながら様々な動きをしている。



- ↳ ・他の子どもと影が被ると、境目がなくなり一つの影になったと喜ぶ声があった。
・隣の子ともと影を見比べて、影の方が大きいと気付く子どもがいた。
・影の中に入ったり、背中を向けたりと自身の居場所や向きによって影の見え方が変わることに気付いていた。

すくわく④

2025年1月17日(金)

テラスにて以前と同じ道具の他に、水を入れたビニール袋や色水を追加して活動に臨む。



↳ 日向、日陰で見える色水の濃さの違いに気が付いて日陰では「くろい！」日向では「しろい！」と明暗の区別を白と黒で表していた。

- コップに入れた色水の中に懐中電灯を入れ、様子の変化を観察した。
 - ↳ 光が当たると色が薄くなり、そうでないところは色が濃く見えることに気が付きコップの周りを一周して色の見え方の違いを見ていた。



- ↳ 色セロハンを貼った双眼鏡を覗き込み、見える色の違いに興味を持っていた。
- 黄色のセロハン越しで水色のカラーブロックを見て、「緑ある」と話していた。

<まとめ>

はじめは遊びの中で光の動きを楽しみ、徐々に発展させていき色付きのカラーブロックを提供してみると「トンボのめがねだ」との発言があり、製作で双眼鏡作りを行った。活動の回数を重ねるうちに子ども達から様々な気付きの声が聞かれ、活動の幅も広がった。カラーブロックを重ねて見える色の変化や液体に光を通した際の見え方の違いや、「暗い所に移動したら？」「(ライトを) こっちからやってみて」と子どもたちからもアイデアが出されることもあり保育者も一緒になって楽しむことができた。すくわくの活動以外でも、様々な場面で光に対する気付きや遊びへ発展させることができた。影を見て身体を動かしてみたり、物の影の大きさが距離によって変わること気が付き影を大きくして「おばけだぞー」と遊んでいることもあった。一言で「光」といっても子どもたちそれぞれが感じるポイントは異なっており、活動中にも様々なヒントを子どもたちから得てその都度活動を変化させていくことができた。今回の活動で光の不思議だけではなく色の混ざりや距離感、温度の変化などたくさんの気付きを子どもたちならびに保育者も得ることが出来た。